



校章

# 谷塚中だより

学校教育目標【学び合う生徒 思いやる生徒 高め合う生徒】

草加市立谷塚中学校

令和7年12月1日

第8号

## 1年の締めくくりを大切に

校長 森 寿義

いよいよ2025年も残り1ヶ月となりました。まだ冬の寒さという感じはありませんが、それでも11月の声を聴き始めたころから、インフルエンザが徐々に流行していき、学級閉鎖だけでなく学年閉鎖にしなければいけなくなり、1年生の期末テストも延期となってしまいました。

3年生にとっては、三者面談や校長、教頭、主幹教諭との面接練習が入ってきて、本格的に進路選択に向けての準備に入らなければいけないところ、予定変更などバタバタと大変になってしまったクラスもありました。まだまだインフルエンザは終息しないようですので、手洗い、うがい、換気、そして食事・睡眠には十分気を付けて予防対策をしてください。

さて、2、3年生は期末テストも終わり（1年生は本日からです。）生徒たちは一息ついたところです。全国学力学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査などの結果を見ても、少しずつではありますが、伸び率が良くなっています。これは一人ひとりが、日頃よりコツコツと努力してきた成果だと思っています。しかし、来年につなげるためには、これで満足してはいけません。人間は満足するとその後は必ず下降線をたどります。いわゆる頂上に行ってしまうとあとは下山するしかなくなるということです。だとしたら、目標を高く持ち、上り続けられるように自分自身をもっていくしかありません。また、何においてもそうかもしれませんが、時間が短くても毎日コツコツと続けていくことによって、ある時からやらないと気持ちが悪くなることがあります。そこまでになるためには、月日はかかりますし常に自分を追い込むことは、そう簡単なことではありません。大人でも難しいことなのに中学生ではなおさらなことです。ただ、そこまでたどり着ければ、そのあとも意識せずに継続していくことができるのではないのでしょうか。

ずいぶん前となりますが、ある方から、喜びには「してもらい喜び」「できる喜び」「人に喜んでもらう喜び」の3つあるという話を聞いたことがあります。発達段階から「してもらい」から「できる」や「人を喜ばせる」に成長していくそうです。中学生では、ちょうど「できる」から「人を喜ばせる」の間くらいなのかなと思います。だとすると「できる」が自信になり、人を喜ばすことで、自分の喜びとなり、それが意欲や活動の源になるのではないかと思います。もう「人を喜ばせる」ことができる私たちが、我が子（生徒）の自信になる声かけや目標設定しやすいアドバイスなどをしてあげることで、期待に応えてくれると思うのですがどうでしょうか。

生徒の皆さんは、真面目に物事に取り組むことに照れないでください。当たり前のことを当たり前前にやることをバカにしないでください。真面目に取り組んでいる人をバカにしたり、茶化したりしないでください。世の中を支えているのは間違いなく、当たり前のことを当たり前前にきちんと行っている人たちだということを忘れず良いと思ったことを継続して、やり切れる人になってください。